

取組実績の概要 【2ページ以内】**○交流プログラムの実施状況**

本事業は、4つの交流プログラム（文化交流プログラム、基礎科学プログラム、先端科学技術プログラム、先制医療プログラム）を柱に、ロシアの極東からカザン、モスクワ、サンクトペテルブルクまでの10海外連携機関に跨り、横断的に学生及び研究者の交流を進めようとするものである。

2017年度は、スタートアップ・トライアル期間として位置付け、海外連携機関と綿密に連絡・調整を行い、多層的な4つの単位・学位取得型交流プログラムの構築を完了した。4つの交流プログラムのうち、学士課程を対象とする文化交流プログラムにおいては、将来的な長期留学への呼び水とするため、先行して派遣・受入を行い、先端科学技術プログラム（環境科学分野）においても、派遣を行った。

2018年度から、全ての交流プログラムにおいて本格的な学生の派遣・受入を行った。2020年度以降は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による影響により、実渡航を伴う学生の派遣・受入が叶わず、オンラインを活用して交流プログラムを実施した結果、下表のとおり、交流学生数について派遣・受入ともに計画を上回る実績を得ることができた。

これらの学生交流を起点として、物理学、化学、医学、生命科学分野での交流が深まり、大学院生や研究者の相互派遣に繋がるジョイント・シンポジウムや海外連携機関からエキスパートを招聘した特別講義を定期開催するなど、研究者交流へと進化した。その結果、教員間の研究課題のマッチングが促され、共同研究へと発展する事例が見られた。

また、オンライン又はハイブリッドによるプログラムを活用することで、交流の機会の多様性や可能性が広がり、今後、実渡航と併せてプログラムを実施することで、更なる教育効果が期待できるとともに、人的・金銭的な効率化を図ることにより、費用対効果の高いプログラムの提供が可能となる。

○質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取り組み

本事業の学内運営体制を確立するにあたり、学生交流プログラムを実施するためのプログラム運営委員会、基礎科学・先端科学プログラム実施小委員会、先制医療プログラム実施小委員会、文化交流プログラム実施小委員会及び質保証小委員会等それぞれ設置し、定期開催した。加えて、本学が行う自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するため、外部有識者からなる外部評価委員会を設置し、毎年度末に開催した。

また、本事業で養成する人材像が備えるべき5つの能力（異文化受容性、現状認識力、俯瞰的思考力、創造（想像）力、実践力）を測定するためのルーブリックを2017年度に作成した。2018年度から交流プログラム参加学生を対象に本ルーブリックの運用を開始し、事前事後のアンケートとして活用した。

○外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

海外連携機関の拠点校として位置付けているカザン連邦大学との連携強化を図るため、2018年9月にカザン連邦大学内に「金沢大学カザンオフィス」を設置し、同年10月に学生交流促進のための覚書を締結した。2019年2月には本学内に「カザン連邦大学金沢オフィス」を設置する等、相互交流の基盤を整備した。

また、本学のSDGs、ジオパーク、ユネスコエコパーク（生物圏保護区）に関する教育研究活動を推進するため、白山市及びNPO白山しらみね自然学校の支援を得て、新たな教育研究拠点として「金沢大学国際機構SDGsジオ・エコパーク研究センター」及び「金沢大学白山白峰セミナーハウス」を開設した。これらの施設は、文化交流プログラムでの受入のための拠点として活用した。

○事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本プログラム専用Webサイトを設置し、プログラム概要や海外連携機関、留学情報等を掲載し、全世界に公開している。また、プログラムに参加した学生が留学先の写真や記事を自由に投稿できる「Activity Report」を設け、日露学生による計185件の生の声を届けている。また、本事業の中でも、ユネスコ認定地域での交流活動を中心とした文化交流プログラムの活動報告をまとめてアーカイブ化し、補助期間終了後も本事業で培ったノウハウ等を基に対象地域を拡大して継続することに向けて、ウェブサイトにて情報公開を行うとともに、関連教材や成果報告等のデジタルブック化を行った。

○「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」の設立

2018年10月にタタールスタン共和国大統領が初めて石川県を来訪し、今後の両地域間の交流促進に向けて、まずは大学間交流から開始する方向性を確認した。これを受け、本事業の学生交流プログラムを中心とした取り組みを通して構築した多層的交流を土台に、石川とロシアとの大学間における交流をより一層促進するため、「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」を2019年7月16日に設立した。このコンソーシアムは、金沢大学とカザン連邦大学が窓口となり、「大学コンソーシアム石川」に加盟する石川県内の全高等教育機関13校と本事業のロシア側連携大学8校とが協同し、本事業のプログラムで得たノウハウやGPを参画機関間で共有すること、また、各参画機関に適した「学術・文化・経済」分野における交流プログラムを開発し、大学間交流から地域間交流に繋げることを目指すものである。2021年度には、日本側参画大学の学生にも本事業の学生交流プログラムを提供し、8名の学生が参加した。

○「金沢大学ロシア同窓会」の設立

本事業の推進成果として、ロシアにおける人的ネットワークが拡大しつつある中、この有用なネットワークを、補助期間終了後も交流の基盤として維持・活用するため、2019年度末に「金沢大学ロシア同窓会」を設立した。2020年度には、同窓会事務室を整備の上、除幕イベントを実施し、オンラインでのキックオフシンポジウムを開催した。2021年度には、オンラインにて第1回同窓会総会を開催するとともに、金沢大学留学生ホームカミングデイの中でロシア同窓会分科会を開催した。また、大学と同窓生、将来の学生との架け橋となるよう、ロシア人同窓生及び在学学生を学生アンバサダーに任命した。

今回の同窓会海外支部体制整備は、すでに運営されている本学他国の同窓会組織と同様、将来にわたって人的ネットワークの基盤となり、また、日露の友好親善増進に寄与するものである。本同窓会は、交流に参加した日本人学生も加入可能な運用としたことで、双方向かつ連続的な交流プラットフォームに位置付けている。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
計画※		20	5	35	17	62	44	76	57	117	79	310	202
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	38	6	65	37	80	57	0	0	0	0	183	100
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)					0	2	86	54	A 71 B 0	A 124 B 0	157	180
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)					0	0	0	0	0	0	0	0

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

※2021年度オンラインについては、以下A Bそれぞれの実績値を記入。

A：コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの

B：もともとオンライン実施で準備していたもの

特筆すべき成果（グッドプラクティス） I 【1ページ以内】**【I 事業全般について】****○「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」の設立**

地域間の「学術・文化・経済」交流の基盤とするため、「石川～ロシア大学交流コンソーシアム」の設立に向けての検討・調整を進めた。本学が「大学コンソーシアム石川」加盟大学の幹事校として、カザン連邦大学がロシア8大学の幹事校として、両者が覚書を締結することで合意し、2019年7月に「石川～ロシア大学交流コンソーシアム設立に関する覚書調印式および記念シンポジウム」を開催し、国内外から約100名が参加した。

○基礎科学プログラムにおけるダブル・ディグリー・プログラム（DDP）の開始

2018年5月、本学大学院自然科学研究科数物科学専攻博士前期課程とカザン連邦大学物理学研究所との間でDDPに関する協定を締結した。2021年6月には、これを数学分野に拡張する内容へと変更を行った。2022年3月までに、カザン連邦大学の学生9名が入学し、1名が修了した。

○タタリスタン共和国大統領来学による大学間交流及び地域間交流の加速

本事業の採択及び本学とカザン連邦大学との25年以上にわたる連携実績を受け、タタリスタン共和国大統領及びカザン連邦大学長ら34名の視察団が本学を来訪し、本学とカザン連邦大学との「学生交流推進の加速に関する覚書」に調印した。同大統領は石川県知事とも会談し、石川県とタタリスタン政府との連携に関して意見交換を行うなど、地域間交流に向けての重要な橋渡しを本学が担った。

○ルーブリック（特別に開発した評価方法）による評価の実施

交流プログラムに参加した派遣・受入学生を対象に、ルーブリックによる評価を実施し、より明確な学習達成度の可視化を行った。その結果、日露双方の学生ともに、本事業で育成する人材が備えるべき5つの能力に向上が見られ、学生教育の観点で大きな成果を確認できた。

○ユネスコエコパーク体験による日露地域交流

文化交流プログラムでは、2018年度から文化・自然を学ぶ場として、両国の生物圏保存地域（BR；Biosphere Reserves：ユネスコエコパーク）を選択し、派遣・受入ともに独自の国際教育プログラムを実施した。

○インターンシップ受入先の大幅な新規開拓

先端科学技術プログラムにおける我が国でのインターンシップ受入先拡充を目指し、連携する企業と交渉した結果、2019年度にインターンシップ先企業を11社に拡充し、うち9社において34名（金沢大学16名、ロシア人学生18名）の学生がインターンシップに参加した。本インターンシップでは、本学学生とロシア人学生をペアで企業へ派遣することで学生間のコミュニケーションが一層深まり大きな交流効果が得られた。また、ロシアでのインターンシップについても、カザン連邦大学との調整・交渉の結果、米フォードと露ソラーズの合弁会社である「フォード・ソラーズ」（自動車メーカー）でのインターンシップ実施に漕ぎつけた。2019年9月にカザン連邦大学へ派遣した学生13名が現地学生とペアを組み同社でのインターンシップを行った。企業への日露学生ペア派遣は学生側・企業側、両者にとってさまざまに有用な仕組みと言える。

○国費留学生優先配置プログラムによる長期留学の拡大

これまでの学生交流の成果が結実し採択となった、基礎科学プログラム及び先制医療プログラムを基盤とする国費外国人留学生の優先配置プログラムにより、単位取得型の短期留学に加え、学位取得型を目指す長期留学も増加した。

○クラスノヤルスク医科大学内に本学海外教育研究拠点を設置

クラスノヤルスク医科大学内に「Krasnoyarsk-Kanazawa Research Station - Social Brain Lab」を設置し、同研究室を拠点としてLaboratory for Social Brain Studies を始動させた。このラボでは、本学大学院で学位を取得した者が現地研究者らと研究を進めるほか、本学教員が出向き、学生講義や研究指導を行う等パートナーシップを確立した。

○日露医学研究教育センターの設置

さらなる学生交流とより一層の共同研究推進のためのプラットフォームとして、金沢大学、カザン連邦大学及びサンクトペテルブルク医科大学内に日露医学研究教育センターを設置した。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）Ⅱ【1ページ以内】**【Ⅱ オンラインの活用について】****○オンラインジョイント・シンポジウム等の開催**

2020年度、2021年度とも、オンラインによるジョイント・シンポジウムや分野別のセミナー、講演等を実施し、研究交流を深めることができた。オンラインでの交流は、費用及び時間的な制約を受けにくく、そのためのリソースを内容の充実に充てることができた。その結果、渡航を伴う現地開催に比して、多くの学生が国際的な環境で発表する経験を持つことができ、多数の参加にもつながった。今後のさらなる交流推進に向け、新しい形式での交流基盤を試行・運用することができた。

○オンライン講義・学生交流

オンデマンド教材の作成・提供とともに、双方向のオンライン講義を実施した。併せて、ビデオチャットを活用し、本学学生とロシア人学生がグループに分かれて共通の課題に取り組んだことで、深い相互理解と交流が得られた。アンケート結果においても両者学生とも満足度が高く、学生教育の観点で大きな成果を挙げたと言える。日本人学生は、白山ユネスコエコパーク協議会と連携したプロジェクトへの参加、公開市民講座での登壇発表、ユネスコ未来共創プラットフォーム事業を始めとするSDGs関連事業への参加など、その後もプログラムでの経験を国内の自発的な活動につなげている。

○オンラインによるアントレプレナー教育の実施

2020年度及び2021年度に実施したアントレプレナー教育では、ビデオ教材による講義提供（全8回）とオンラインディスカッションを組み合わせた。講義では、日露関係のバックグラウンドを有する多彩な講師がリレー形式でビデオに登場し、オンラインディスカッションでは、オフィスアワーを組み合わせ講義とさまざまに意見交換する機会を設けた。その結果、2020年度は31名、2021年度は53名もの受講があった。

○オンラインによるインターンシップ

2020年度及び2021年度において、オンラインアントレプレナー講義の提供があった企業へのオンラインインターンシップを企画し、2020年度には3社から受入承諾が得られ、3名の学生が2社のオンラインインターンシップに参加した。実際の採用に結び付くことを期待している企業もあり、本インターンシップが採用のきっかけになる可能性がある。

○ロシアの連携大学へのオンライン講義の提供

学生交流プログラムをきっかけに、連携大学のひとつであるサンクトペテルブルグ国立大学から法学系オンライン講義の提供依頼があり、本学教員による英語講義の提供を開始した。また、サンクトペテルブルグ国立大学側からも講師の紹介を受けている。学外に適任の講師がいる場合には、学外者とも協力して講義提供を行う等、連携内容・対応体制とも拡大が図られている。

○石川県国際交流協会IJSPにロシア学生が参加、オンライン用PR動画によるプログラム周知

2018年のタタールスタン共和国大統領来日成果の一つとして、石川県国際交流協会が提供するIJSP（石川ジャパニーズ・スタディーズ・プログラム）に、カザン連邦大学からのロシア学生2名が2019年度に参加したことが挙げられる。IJSPは、日本語学習者が石川県でホームステイをしながら、日本語と日本文化を学ぶプログラムで、自治体や地域住民との交流も行われる。2020年度には、本学在学中のロシア人学生に対し、IJSPから和太鼓体験と金箔貼り体験等が提供され、日本の伝統文化への理解を深める貴重な機会となった。また、この様子を撮影したオンライン用PR動画が作成され、同協会において広く事業周知が図られており、石川県が実施する国際事業との協力体制の強化及び地域交流に向けての裾野を広げることに繋がった。

○金沢大学ロシアウィークの開催

5年間の事業の集大成として、2021年9月29日～10月1日に「金沢大学ロシアウィーク」と題し、交流プログラム別のジョイント・シンポジウム、金沢大学ロシア同窓会総会、金沢大学イルクーツク事務所開所式をオンラインで開催した。新たな試みとして、一部のシンポジウムでは遠隔配信拠点を設置し、地域の協力者にも活動報告ができるよう一般公開を行った。イルクーツク事務所の設置については、金沢市と姉妹都市であるイルクーツクを活動拠点に留学情報の発信や現地訪問時の学修拠点とするのみならず、オンラインでのイベント開催時の拠点とすることも可能となり、地域間交流を含めたさらなる交流の深化が期待できる。